

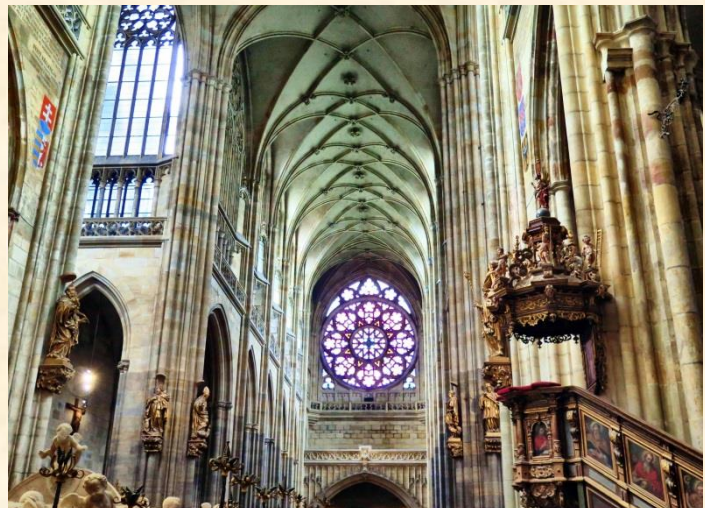
南ドイツ・オーストリア・チェコの旅③

9月14日

昨日チェスキー・クルムロフからプラハへ移動、今日は世界遺産「プラハの歴史地区」をめぐる。「黄金のプラハ」と呼ばれるこの都市も多くの歴史的建造物が多く美しい街だ。

スラヴ民族がこの地に集落をつくり砦を築いたのが、6世紀から7世紀にかけてだ。その後ヴルタヴァ川左岸にプラハ城の前身の城塞が築かれる。その後街は発展していき、14世紀の半ばにはボヘミア王カレル1世が神聖ローマ帝国カール4世として即位するとプラハはその首都となる。

15世紀以降は、戦乱の舞台となり、フス戦争の勃発や30年戦争など幾多の歴史を刻んできた。



この日は、まずプラハ城に向かい聖ヴィート教会を見学する。典型的なゴシック建築である。ただ、内部のヴォールトが網目のようにになっている。後で調べてみるとネット・ヴォールトと呼ばれ、ヴォールトをかなり補強することができるとのことだった。当時の新しい手法だったようだ。



また、チェコの有名画家アルフォンス・ミュシャが、身廊の北部の窓を新しく装飾している。ミュシャの特徴がよくわかるステンドグラスが輝いていた。

聖ヴィート教会、聖イジー教会などを見学したあと、黄金の小路を経てカレル橋へと向かう。

今日は天気があまり良くなく、小雨がぱらついてきた。

カレル橋は、多くの人が往来していた。

特にカトリックの聖人ヤン・ネポムツキー像の基部にあるネポムツキーのレリーフは、触れると幸運が訪れるといわれ多くの人に触られたためつるつるになっていた。



カレル橋を渡り、旧市街へと向かう。有名な旧市庁舎の天文時計をまず見よう。



プラハのオルロイとも呼ばれるこの天文時計は、3つ部分から成っている。

空の太陽や月の位置などの天文図を示すための文字盤、「使徒の行進」と呼ばれるキリストの使徒などが時間ごとに動く人形仕掛け、そして月々を表す浮き彫りの暦版だ。

一定の時間になると、上部の窓から鐘の音とともに12使徒が出現する。



旧市街広場には、ヤン・フスの銅像がある。ヤン・フスはキリスト教改革派のフス派の信者と、それを異端としたカトリック、神聖ローマ帝国の間でフス戦争を引き起こすが、有罪とされ、火刑に処される。彼の最期の言葉「真実は勝つ」はその後外国支配が続いたチェコ人のよりどころとなり、現在のチェコ大統領府の旗にも使用されている。

旧市街広場で少し休憩し、「聖ミクラーシュ聖堂」へ向かう。

ここはバロック様式の建物で、聖堂の内部はバロック様式のフレスコ画などの装飾が施されている。天井画も見事だが、立派なチェコガラスで作成されたシャンデリアが目をつけた。ここでは、ほぼ毎日クラシックコンサートが開かれているとのことだ。

聖ミクラーシュとは、聖ニコラウスのことで、日本ではサンタ・クロースと呼ばれている。



さて、今日は色々なところを巡った。旧市街広場の地下にあるビアホールで、夕食をとることにした。

地下の洞窟のようなところに入るとクマや猪、鹿の角、鳥類などの剥製があり迫力があつた。ちょうどチェコの娘さんが来たので記念にツーショット。今日一日、無事であったことに感謝し、明日また楽しい旅が楽しめるように乾杯！！



9月15日

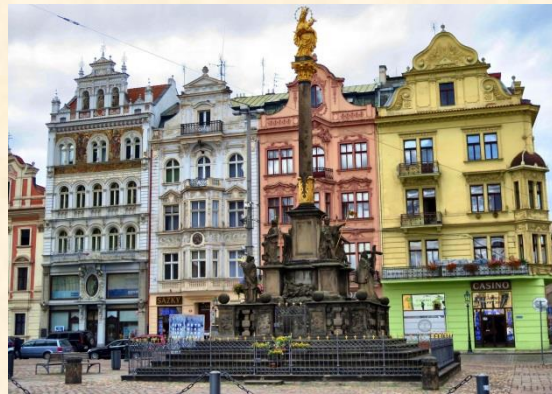
プラハを後にして、今日はもう最終日。ミュンヘンへの途中、ブルゼニュに寄る。ピルスナービールの発祥の地として知られている。

ブルゼニの共和国広場には、13世紀後半に建てられたゴシック様式の聖バルトロメイ大聖堂がある。

塔の高さは102mありチェコで最も高いそうだ。近くにはペスト終焉記念の柱像がある。そして周囲には色とりどりのバロック様式の街並みが見られる。ここでは、西欧の雰囲気を感じさせる。



また、ルネサンス様式の市庁舎や大きなシナゴグもある。残念ながらシナゴグは閉まっていた中を見学することができなかった。



街中を見学した後、有名な「ピルスナー・ウルケル」の工場に入り、レストランというかビアホールで昼食をとる。

ここでピルスナービールがなぜここまで有名になり、人気を広まったかを紹介しておきたい。



1830年代まで、ボヘミアのビールは上面発酵だったため、発酵時の温度が高く、雑菌等が入り品質面で問題が多かった。そこで、ブルゼニ市では、ミュンヘンから技師を招き、下面発酵方式を導入した。

誰もが、ミュンヘンと同様の濃色のビールができたと思っていたが、想定外の黄金色で純白の泡を伴う、爽快な喉越しのビールが出来上がった。

これが、ピルスナービールの誕生だ。原因は水にあった。

ここでは、ヨーロッパでは珍しい軟水であったからだ。硬度が低いため、重炭酸イオンの影響が小さいことが幸いした。

加えてこの頃、普及しはじめたボヘミア・ガラスが黄金色を引き立てた。
ドイツでは、それまで陶器製の容器が中心だったため、ビールの色はあまり意識しなかった。この結果、ピルスナービールは、透明なグラスとともに急速に広まっていくことになった。

そういえばそろそろ昼食の時間だ。最後の乾杯をしよう。



夕刻、ミュンヘンにつき、夜の便で帰途につく。
ミュンヘンでは、記念にドイツビール、ビアマグとビアジョッキーを買った。



今回は、3か国の世界遺産とともにそれぞれの街の魅力を改めて発見することができた。また、ピルスナービールがおいしい旅でもあった。

次回は、世界遺産とともにワインを楽しもうか、それともウイスキー？
欲張りな旅ができるのは、いつになるのだろうか。

(2015年10月11日)